
Dream or Fact

ナギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

D r e a m o r F a c t

【コード】

N 6 7 7 9 I

【作者名】

ナギ

【あらすじ】

ある日気づく。

毎晩同じ夢を見ると。

そして気づく。

その夢の中で最後は眠りに付くと。

そして疑問を浮かべる。

果たしてこれは本当に現実なのか？

それとも夢なのか？と。

この物語について

この物語は物語上の一日ごとに世界観ががらりと変わります。

最初は<学園編>と<冒険編>

学園編では学園生活を中心とした物語を、冒険編では魔物や魔法が存在する世界「オビリオン」を舞台に物語りは進んでいきます。

こころ話が変わると厄介でしょうが最後までお付き合いください。

次で登場人物の紹介を行いたいと思います

〈登場人物〉（前書き）

この物語は世界がひとつではありあません。

しかし物語りに出てくるどの世界にも共通した登場人物があり、同じ登場人物であればどの世界でも性格、容姿などに変化はほとんどありません。

〈登場人物〉

〈登場人物〉

〈主人公〉

高坂 理樹こうさか りき

17歳

この物語の主人公。

仲間を大切に思い、他人も大切にする。

- 学園編 -

運動能力は優れていて頭も上の下といった学園では優良児。

- オリビオン編 -

片手剣と盾を扱う「ナイト」。

行方不明になった姉を探すために頑張ることになる。

〈男性〉

藤林 信也ふじばやし しんや

17歳

「自分より他人」ということを考えて行動するが、基本は女子には軽々しい男としか見られないような行動ばかり起している。

- 学園編 -

主人公と楠木瑞希とは腐れ縁で悪友、唯一無二と言ってもいいほどの親友。

見た目はいいのだが中身が若干変態チックというか手が早いため女子に嫌煙されがち。だが以外ともてたりする。

仲間のピンチにはちゃんと駆けつけるいいやつ。

- オリビオン編 -

大きな両手剣を扱う「ウォーリア」。
主人公とは赤子の時から一緒の村で育った。
とある事情から理樹達と旅に出ることになった。

楠木 瑞希

17歳

容姿が女の子に見えることからからかわれたり、愛でられたりしている。

頑固な一面があり、これ！と信じたら道理を曲げないで頑張る。

- 学園編 -

主人公の腐れ縁で悪友。信也とも親友と呼べる仲。

名前、容姿共に女の子に見えるると人気がある。本人は本当に嫌がっているが男からも人気がある。

藤林信也と違い運動神経が良い訳ではないが頭脳明晰で学年TOPレベル。

なにかと女子達から告白を受けるがノリクラーリとかわし続けいまだに恋人はいない。

- オルビオン編 -

攻撃魔法と専門とする「メイジ」。

理樹達と旅に出ることになった。

高坂 明紀

40歳

豪快な主人公の親父

かなりの放任主義

ただ曲がったことは大嫌いなので主人公が過ちを犯せばちゃんと指導をする。

背格好は大柄である

- 学園編 -

理樹の父親。主人公を生むと同時に最愛の妻を亡くしている。しかし息子である理樹そして美希にはその死については隠している。妻の死から1年たった後に美希の母である如月絵里と再婚した。

- オリビオン編 -

時には獣にまたがり戦い、時には己の足で走り戦い、時には魔法をも扱う剣術最高職と謳われる「パラディン」。

魔術師である妻の絵里とギルドの依頼であっちこっち飛び回っている。

こちらの世界では元々絵里と結ばれていた。

（女性）

高坂 美希

18歳

とても面倒見のよい姉である、怒るとき笑顔で怒る。それがかなりおっかないと

理樹は怒らせないように日ごろ気を付けている

- 学園編 -

理樹の姉。幼少時にお互い片親を亡くしており美希は父親を亡くしている。

その後両親が再婚し高坂の姓を受け、理樹の姉になった。

- オリビオン編 -

攻防そして治癒も扱える万能な魔術師。「ウィザード」

学園編とは打って変わってこの世界では主人公とは本当の姉弟。

オリビオンでは主人公と同じ村で暮らしていたが現在行方をくらましている。

成瀬 二葉 なるせ ふたば

16歳

主人公の一つ下。

料理がうまい、ただ天然なあれがあり理樹やその他の面々を困らせることがある。

理樹には兄弟のように接する。

どの世界においても共通して主人公とは幼馴染という立場になっている。

- 学園編 -

理樹と同じ学園の1年生。

頭がよく成績TOPで入学してきた超優等生。

しかしややドンくさい。

理樹と美希とは毎朝一緒に登校している

- オリーブオン編 -

治癒術で補佐する「プリースト」

桜 鈴 さくら すず

21歳

清楚で言葉遣いが綺麗。

身長140と小さく容姿は幼い、共通で教師という立場である。

- 学園編 -

主人公達が通う学園の2-Aの担任。担当教科は現代文。愛称は鈴先生。

身長が教え子達より小さい140ということに気がなかり気にしたり。

生徒達から愛され愛でられる清楚な先生。料理が得意でお弁当を持参しているという。

- オリーブオン編 -

攻撃、治癒魔法を扱う「ウィザード」

主人公達の村に住んでいて村の子供達に魔法を教えている

こうさか
高坂 えり
絵里

39歳

容姿は年齢よりかなり低く見られることが多い。

まだ制服を着て学校に通ってもばれないと言われるほどの容姿。
ざっくばらんな性格で大胆である。

- 学園編 -

理樹の義理の母で美希の母親。

美希を生んだその年に夫を交通事故で失う。

現夫の明紀とは幼馴染でお互いに最愛の相手を失った際に慰めあつた。

- オリーブオン編 -

夫を守るべく魔法を使い分ける「クレリック」

夫と共に遠くの地に仕事へ行っているため村にはいない。

〈登場人物〉（後書き）

なお、登場人物はまだまだ増えます！

第一章：第一話〜早朝〜 - 学園編 -

気持ちがいい。こうやって羽毛布団にくるまれているととても気持ちがいい。

季節は12月。布団はよもや天国ヘブンと言っても言い過ぎではないだろう。

でもこの幸せな時間は長くは続かない。もう間もなく俺の姉が俺を起こしにこの部屋に入ってくるだろう。

俺は目を瞑ったまま、抵抗を試みようとして心に決めた。

- ガチャツ -

部屋の扉が開かれる。

「理樹君、そろそろ起きないと遅刻しちゃうよ〜」

俺は目をつむったまま無反応、いわゆる完全無視を決め込む。

「理樹くん！おい、早く起きないとご飯食べちゃうよ〜」

ご飯は食べて学園に行きたい、でも今は一分、いや一秒でもいいから長くこの布団の中に居続けたい。

「そう、理樹君いいわ!」

- ガラガラツ -

俺の部屋にあるベランダに続く大きな窓が全開される。

「うう、さぶっ！理樹君まだ起きないとは・・・」

俺の布団にはまだ俺の体温で温まっている、もうちよい籠城できる。しかし布団から出ている、頭と顔は冷気を受け寒い。

それを防ぐべく布団を少し持ち上げた時だった。

不意に体の上に乗っかっていた重量が0ゼロになる。
とうとう布団を奪われてしまった。

「さ、理樹君起きてるのは知ってるわよ！さっさと起きてご飯！」

「寒い……」

「おはよう理樹君」

「うん、寒い。」

「おはよう理樹君！」

姉ちゃんは笑顔でこちらを見ている。あの笑顔とあの声色はまさに怒っている証。

このまま本気で怒らせれば今日一日、それならまだいいほうだ一週間俺のご飯を作ってくれなくなる。

俺はその驚きで一気に目が覚めた。

「おはようございます！お姉さま！！」

「よろしい！じゃあすぐに支度して降りてきてね！」

そう言い残すと手に持っていた羽毛布団を俺のベッドの上に綺麗に直すと部屋を出て階下に降りて行った。

完全に目が覚めてしまった。

これ以上怒らせると不利になるばかりだ、支度をするか……。

着替えを済ませ階下のリビングに降りると、朝食が用意されていた。

味噌汁に納豆、目玉焼きに焼き魚そして煮物が用意されていた。

ふと壁に掛けてある時計が目に入る。

『6時30分』

「って姉ちゃん早いよ！」

「せっかく早起きして魚焼いたし、いつもよりいっぱいできたから早く食べたほうがいいかなーって思ってさ。」

そっぴや2度寝しようとして起こされた俺も起こされる前に目が覚

めてたよな……。
なんで俺もあんなに早く目が覚めたのだろうか。

「なんかさ、変な夢みちゃってさ。
それがなんだったか今は思い出せないけど、とても嫌な夢だったよ
うな気がするよ。」

俺も変な夢を見たのだろうか？

しかし今の俺には夢を見たという記憶を思い出すことはできなかった。

もしくは見てなかったのかもしれない。

そんなで朝食を食べ終わってニュースを見ていた。

「本日未明、榊町在住の大学生、梶原直樹さん^{かじわらなおき}21歳が自宅アパートにて殺害されました。

事件は本日未明、梶原さん本人から知人に「助けてくれ」と怯えた様子で電話で助けを求めました、不審に思った知人が警察に通報、近くを警邏していた警察官が5分後に現場に到着するもすでに殺害されています。

梶原さんは玄関で倒れていて、頭部を一発、腹部を数発、拳銃で撃たれて殺害されていました。

部屋のドアはカギを銃で撃ち抜かれ壊されていました。

梶原さんはアパートの隅の部屋に一人で住んでおり、隣接する部屋階下の部屋ともに空き部屋で一つ離れた部屋の住人は怪しい物音を聞いたものなにか物を落としたのだろうかとうちに留めなかったようです。

では現場から……」

現場の映像が映し出された。

「ここって商店街の奥の公園よね？」

姉さんがテレビを洗い物をしながら見ていたようでそう聞いてきた。

「その隣のアパートみたいだね」

「なんだか近くで殺人事件なんて物騒ね。」

確かに物騒だ。これ以上ここで話を広げるのもあれなので支度を始める。

「姉さん！今日はちょっとやる事ができたから先に出るよ！」

「うん、わかった！今日はそうねカレーにするわ！」

いつもなら『今晚なににする？』って聞かれるのだが、今日はなぜかもう決まっていたようだ。

「わかった」

俺はそう言い残すと家を出た。

第一章：第二話〈部活〉 - 学園編 -

学園につくと早々と教室寄らず俺の所属する部活の部室に直接向かった。

「部長！直樹さんが！！」

部室に入ると部室の奥にある部長の席である、大きな椅子がこちらに背を向け窓のほうを向いていた。

俺が呼びかけると大きな椅子が回転しこちらに向き直った。

部長である3年の門倉恭介。

この現代情報研究部の部長であり、そして生徒会

「早かったな理樹。わかってる。直樹さんが殺された。たぶん知ってはいけないところまで知ってしまったって消されたんだろう。」

「俺らもその事は若干なりとも関わりがありましたよね？」

「ああだから俺の特権を使って1時間目の間部員を全員集めて会議をする。」

「そんなの職権乱用と変わらないんじゃない？」

「乱用して何が悪い！乱用される側が悪いんだろ！」

いいかとりあえず俺が集めると言ったら集めるんだ！

理樹、お前以外の部員にはメールで通達したのだが片桐だけ携帯持ってないだろ？

連絡がつかん、お前ちょっと呼んで来い。片桐はこの時間にはとっくに登校してきてるはずだ。

たぶん屋上にいる。」

かたぎりちなつ

片桐千夏うちの部員、無愛想だがなぜかこの部に所属している同じ2年生。

「屋上！本当にいるんでしょね？」

「俺の言うことを信じろ。返事は了解だ。」

「了解」

それから俺は走って屋上を目指した。

別に走る必要なんて皆無だが、なぜか走っていた。

屋上の扉を開く。本当ならここは頑丈な南京錠がかけてあって入れないようになっている。

生徒会副会長の片桐千夏はどうやらこここの鍵を所持しているのだから。

屋上隅に置かれているベンチに座って自前のノートパソコンのキーボードを叩いていた。

「片桐！部長がお呼びだ。」

「わかったわ。どうせ直樹さんのことでしょ。」

「ま、想像はつくわな」

「ええ。で高坂君はこのまま事件を追う？それともここで抜ける？」

「はあ！？一体どういうことだ？」

「何も聞かされてないのかしら？それぐらい察してもよさそうだったからあの男がしゃべらなかつたのかしら？それとも・・・」

「何の話なんだ？部長は直樹さんがあの件について知ってはいけないことを知っちゃったとしたか・・・。」

「まあいいわこのまま部室に直行しましょう。すべてはそこで話し、あの男にだって話させるわ。」

状況を呑み込めず啞然としていた俺は片桐に袖をひっぱられ部室に連行された。

部室につくと部員6人全員が待機していた。

部員は全部で9人

部長でもあり、生徒会長でもある門倉恭介。かどくらきよすけ

副部長でもあり、風紀委員長でもある3年生の橘沙織。たちばなさおり

今俺が呼びに行ったのが生徒会会計でもある片桐千夏。かたぎりちなつ

毒舌風紀委員副委員長の西野東雲にしらのめ

生徒会書記の影山彰人。かげやまあきこ

生徒会書記の東条零。とうじょうみろ

風紀委員、三澤朱音。みさわあかね

クラスメートの風紀委員、藤林信也。ふじばやししんや

そして俺、生徒会会計の高坂理樹。たかさかさとむ

この部は生徒会役員、風紀委員の有志のみしか入部していない。いろんなところで暗躍したりしている部である。

まあこここのところの活動は例の事件だけだ。

それ以外は自分たちでこつそりと部費を活動に割の合わないぐらいちよろまかしている。この部室でくだっているのだが。

生徒会副会長は俺の姉さんだがこの部にはとある理由から参加していない。

「集まったか。」

部長が重い腰を上げると同時に口を開いた。

「これから諸君らに効きたいことがある。

現在調べている事件の真相を知って、我らのOBでもあり、この部の創設者『梶原直樹』が何者かによって殺害された。

俺はこの事件を部を持って追おうと思う。

しかしこれを追うには危険を伴う、よって全員を強制参加させるわけにはいかない。

参加したくないものは拳手。止めはしない、そして攻めもしない、ここでやめるも勇気だ。」

しかし誰も手を上げない。

俺だって手を上げない。この事件は追わなくてはいけないそんな気がしていたからだ。

片桐が言っただのもこのことだろう。

「いいんだな貴様ら！よし、行くぞ！我ら現代情報研究部

とりあえず今までの情報を一つにまとめたい。

理樹！全員の持つ情報をお前のパソコンに送らせる、まとめて送ってくれ！」

「了解^ヤ」

しぶしぶ面倒な仕事を引き受けることにした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6779i/>

Dream or Fact

2011年1月4日02時36分発行